第１号議案

令和5年度事業計画

1. 社会福祉法人身障者ポニーの会では「すべての人が夢と希望をもって暮らせる社会の実現に貢献する」ことを目指して地域に密着した事業に取り組んできた。

　　令和5年度は３名の新たな利用者を迎え、「ポニーの家多機能」は定員48名（生活介護38名・就労継続支援B型10名）、「ポニーの家生活介護」は定員20名、「ケアホーム夢未来」は定員14名でスタートする。引き続き利用者が生き生きと充実した毎日を過ごせる様支援してく。

　　また、新型コロナウイルス感染症の感染予防については、感染症の拡大に応じ具体的な対策に取り組みイベントの開催を控えていたが、令和５年度はフェスティバルや交流会など保護者の方も参加していただくイベントも計画している。

2.　事業方針

2-1　基本方針

障害のある方が地域生活や社会活動を行うことを支援し、すべての人々が共に良い人生をおくれるよう、利用者の視点に立って運営する。

2-2　重点推進項目

1. サービスの質の向上：サービスの継続や質の向上を図るためマニュアルの改正や職員の教育体制を強化する。（誰が関わっても同等の質のサービスの提供を行うことを目指す）
2. 組織力の強化：現状の課題を見える化し法人組織全体で取り組めるようなチームワーク作りをする。
3. 地域における公益的な取り組みの推進 ：新しい生活様式に対応した、公益的取組を推進する。
4. 信頼と協力を得るための情報発信 ：事業内容についての様々な情報発信により、安心と信頼を得る。
5. 組織統治（ガバナンス）の確立 ：法人経営の安定のため、本部を核とした拠点間の連携・協力体制を強化する

3.事業計画

3-1.ポニーの家多機能

<令和５年度　目標＞

利用者一人一人が楽しくポニーに通えるように支援する。また、生きがいを持ちながら日々を過ごせる様に支援していく。

【生活介護】

（目標）

作業や余暇活動を通して、毎日を心豊かに過ごせるよう支援する。また、安心・安全な環境を提供し、楽しくポニーに通所できるようにする。健康面にも留意していく。

（基本方針）

利用者の個性や能力を引き出し、適性にあった作業を提供し日々の生活に充実感を持てるように支援していく。作業以外の余暇活動においても各利用者の能力に応じて活動を楽しめるように支援していく。また機能訓練指導員(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)の指導のもと、各利用者に無理のない範囲で身体機能の維持・向上に努めていく。

　（サービス内容）

・利用者の状況に応じて生活や活動に関する必要な日常生活上の個別支援を提供する。

・創作活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な支援をする。活動班を少数グループに分け、各班のレベルに応じた活動内容・支援の提供を行っていく。

・各作業では、それぞれの持っている力を十分に発揮できるよう多様な支援方法を考え、提供していく。

・利用者が自分自身の生きがいを持ち、楽しく通所していけるよう日々の関わりを大切にしていく。

・機能訓練指導員の指導のもと余暇時間を活用し利用者の健康維持に努め支援していく。

・新型コロナウイルス感染防止のため、食事の場所を分け、手洗い・消毒・検温の実施、必要箇所・道具の消毒、換気の徹底を実施していき、利用者が安心して通所できる環境を整えていく。

NC班：内職班、農業、クリーン班の合同班を継続し、利用者の能力に合った作業を提供していく。内職では受託の作業を請け負い、従来の作業量を維持する。農業では季節に合った作物を育て季節を感じられるように支援していく。（春：土つくり、種まき　夏：ナス、キュウリ、トマト等　秋：さつまいも　冬：小松菜、ネギ、かぶ等）また育てる過程から収穫の喜びを味わえるように支援していく。クリーンでは、洗車や施設内清掃を通して物や場所を綺麗にする喜びを得られるようにする。

また、各作業に置いて健康面にも留意し、利用者が安心・安全に過ごせる様にしていく。

食品：クッキー班、パン班の合同班を継続し、衛生観念を育み、自分たちの手で商品を作りあげていく喜びを味わえるように支援していく。作業手順の見直しや道具や材料の置き場所を見直し、効率よく作業ができる環境にする。

手工芸：季節にあわせた商品を作り、四季を感じながら作業に取り組み、楽しみや達成感を提供していけるように支援していく。

ポニー売店：喫茶きままは水曜日・金曜日のみの作業になるが、施設内での社会参加の模擬

（きまま）　体験を通して、社会のマナーを身につけていけるように支援する。

（庁舎売店）藤代庁舎のエントランスホールにワゴンを常設し、一般の方たちに施設内で作った手工芸品・クッキー・パンなどを販売している。接客を通し社会の一員として働ける喜びを味わえるよう支援する。

【就労継続支援B型】

≪令和５年度目標≫

・適性に合った作業で安定した能力を発揮し、生産性を向上できるように支援する。

（基本方針）

菓子製造、カフェ、外部清掃、コーヒー焙煎など各作業での生産性を向上し、利用者の適正に応じて安定した能力が発揮できるよう、精神面や体調面に配慮して支援する。また、カフェでの作業において各利用者のレベルや希望に応じたスキルアップを図っていけるように支援する。

（サービス内容）

・個々の強みを引き出せるようによく観察をし、能力や適性にあった作業を見極め提供していく。また、働く意欲や希望を尊重し、利用者の気持ちに寄り添い、精神面や体調面の変化を見逃さないように支援する。

・能力が向上するように支援し工賃向上に繋げていく。

・日常生活や作業において、利用者同士が仲間としての意識を持ち円滑に進められるようにコミュニケーションや関係づくりの構築を目指していく。

・日々、菓子製造、カフェ、外部清掃と3つに別れて作業を行うため、関わる支援員との連携を強化していく。

・各作業において危険や怪我がないよう安心安全な環境を整える。

・菓子製造での売り上げを伸ばすために、生産量を増やすように作業の構成を考えていく。

・外部清掃では現在より清掃場所が減るが、委託先や受注者が満足できるように清掃作業をおこなっていく。

・カフェ…売り上げアップのために、新メニューやイベント、キャンペーン等を考え実施していく。月額目標90万円以上とする。

3-2　ポニーの家生活介護

1. 生活介護

＜令和5年度目標＞

身体機能の維持・向上を図りながら、安心・安全な環境を提供し、利用者の生活に潤いや活力をもたらす様支援していく。

（基本方針）

常時介護が必要な利用者に対し、安心した楽しい時間が過ごせる様、食事や排せつ等の日常生活の支援を丁寧に行い、創作活動や生産活動の機会も提供する。

又機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の指導のもと利用者に沿ったより効果的なリハビリテーション・機能訓練を提供し、健康状態を良好に保てるよう必要な援助を行う。

（サービス内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 部門 | 内容 | 目標 |
| 箸作業 | 箸・ペーパースプーン・フォーク等　おしぼり（アオトプラス）、ペーパーピック、外出、ウォーキング、軽運動 | 作業や余暇活動に楽しく取り組みながら、皆で穏やかに生活できるようにしていく。 |
| ドルチェ | リズム・ストレッチ体操、ウォーキング、微細運動、外出、調理実習、ガーデニング、音楽、箸作業や内職作業への参加、創作活動、カフェへの納品、  バイタルチェック等の健康観察、通院が難しい方への歯科検診 | 運動やマッサージ等を通して、身体機能の維持・向上を目指す。小集団での活動を通して、季節を感じられるような環境を整え、一人ひとりが明るく楽しい時間を過ごせるようにする。 |
| 製本印刷 | 名刺、ハガキ印刷、文章打ち込み、カレンダー、写真印刷、献立表打ち込み  11/1-15年賀状・ｶﾚﾝﾀﾞｰ見本作成開始  11/15～年賀状･ｶﾚﾝﾀﾞｰ注文開始  ～12/10ｶﾚﾝﾀﾞｰ仕上げ  12/20～ｶﾚﾝﾀﾞｰ引き渡し | 個々の特性に合わせた作業を行い、納期のあるものは計画的に進めていけるようにする。 |
| 未来工房 | ボールペン・慶弔ペン封入（株式会社ABM）厨房手伝い（野菜皮むき・精米）、ペットボトル回収・処理、荷物運搬、ダンボール梱包・処理、シュレッダー、ウォーキング、ストレッチ、軽運動、チョコ箱作り、デザート運び、カフェへの納品、その他（依頼雑務） | 小集団の中で、他社と生活をしながら社会性を身につけ、皆で励ましあいながら過ごす。 |

3-4　共同生活援助（介護包括型）ケアホーム夢未来

＜令和5年度目標＞

利用者の健康状態と安全に配慮し、共同生活を送るにあたって、ご家庭と利用者・職員と共に協力しあいながら支えあっていく。

（基本方針）

自立を目指し、地域で安心して暮らしていきたいという利用者に対し、食事の提供、健康管理、入浴支援、日常生活及び日中活動に関する相談など必要な支援を行う。家庭的な雰囲気の中でお互いに支え合い、健康と安全に配慮して生活していく。

≪利用者≫

|  |  |
| --- | --- |
| 利用定員 | 14名 |

≪職員配置≫

|  |  |
| --- | --- |
| 管理者 | 1名（兼任） |
| サービス管理責任者 | 1名 |
| 世話人 | 7人（専任） |
| 生活支援員 | 10人 |

4.　特定相談支援事業部門（キャンディ）

＜令和5年度目標＞

利用者が持っている力を活かし、自らの足で夢の実現に向かって歩んでいけるように支援していく。

（基本方針）

　　 利用者の持っている能力を信じ、それを発揮できるよう環境調整を行なう。

　 「利用者の望む生活」に視点を置き、その実現のための方法を利用者・家族とともに考えていく。

　　現在利用中の124名に対して、計画作成・定期モニタリングを行なう。

　　令和5年度はコロナが終息に向かい、これまでの我慢の日々から前向きに行動できる日々になっていくことを願っている。利用者が夢の実現のために一歩を踏み出したいと思った時には、その勇気となるように気持ちを整理する支援や環境調整を行なっていく。

　　またこれからも安定した現在の生活を続けていきたいと思う利用者には、それが継続できるよう必要に応じた調整を行なう。